

乙 貞

第15号 (通巻第4巻第1号)
1984年5月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター発行
☎ 0775 (85) 4397

〒524-02
守山市服部町1/3/8番地

IIIIIIII 昭和59年度当初に IIIIIIIII

前号の「乙貞」から2ヶ月、大変暖かくなってきました。遅すぎた春も訪れ、今はその息吹きを満喫できる時節となりました。ふりかえてみると、近年にない厳しかった冬は、発掘調査の前に壁の様に立ちはだかり、その存在の忌々しさをことさら印象づけましたが、この時季になり、外で調査に携っている我々職員の委縮していた心も、草木の萌芽の様に、大きくふくらんできています。

さて、この埋蔵文化財センターも4回目の春を迎え、職員一同、心を新たにしております。今年度も職員に若干の異動がありましたので、まずそのことからお伝えします。昭和59年度の人員については下表のとおりで、今年度から、北村勁嗣所長に代りまして、沢 悠光所長が着任することになりました。今まで教育委員会社会教育課長が所長を兼務する形をとってきておりましたが、沢 所長はセンター運営に専任しますので、今まで以上に、来館者あるいは市民の意見や要望をセンター運営に反映させることができるものと考えております。

センターを見学され、気づかれた事や希望などもたれましたら、どしどし職員にお申し出下さい。所長以下お待ちしております。

センター職員表

職名	氏名	担当
所長	沢 悠光	センターの統括、友の会
主事	山崎 秀二	調査計画、調査、整理作業
主事	岩崎 茂	調査、特別展、整理作業
主事	畑本 政美	調査、特別展、整理作業
調査員	岩崎 陽子	整理作業、見学説明
調査員	宮下 睦夫	調査、整理作業
調査員	中納 久美代	整理作業、見学説明、友の会
用務員	福沢 絹枝	センターの雑務管理

着任にあたって

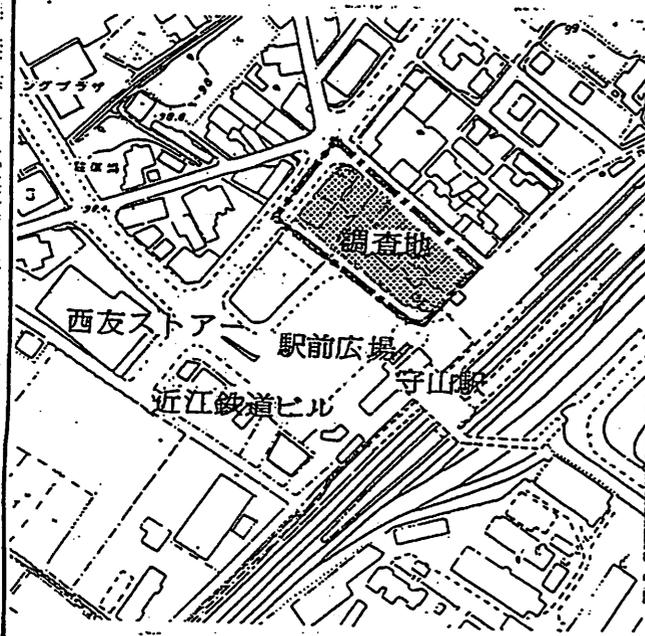
わが守山が豊かな自然の恵みと立地条件の優位性から古代より非常に優れた伝統と文化が栄えてきたことは、服部遺跡を始め各地の埋蔵文化財の発掘調査で立証されてきたとおりです。これらの調査で具現化された遺構から先祖の生きざまをこの目で確かめ、又出土した遺物を手にとって観察することから守山の真の歴史を学びとり、その血を受けた我々がこの大地にしっかり立って明日に向かってたくましく生きることが大切ではないでしょうか。

教育の基本理念の一つに「地なくして人なし」といわれます。人をつくろうとするならば、その土地と歴史とを離れた教育は意味をなさないというべきでしょう。市民憲章に「伝統に学び文化の香りたかいまちをつくりましょう」とうたわれており、本年度市の施政方針はこの市民憲章の具現化を中心課題として推進することにあります。埋蔵文化財センターは、この方針を踏まえ、機構を充実し、市民の要望に応え日曜開館とし、年4回の特別展及び常設展をより親しみやすいものにしたいと念願しておりますので、より積極的にセンターを活用して下さい。

埋蔵文化財センター所長 沢 悠光

～ 発掘調査だより ～ 吉身北遺跡発掘調査終了!!

前号でも、吉身北遺跡の調査経過について報告しましたが、去る3月31



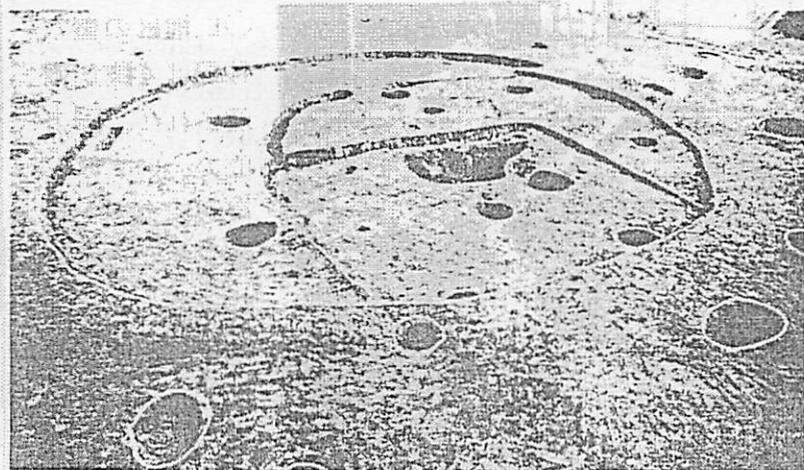
日に現地での調査を終了しました。近年にない厳寒の中、予定の期間内に調査を完了できたのは、調査に従事された方々や開発サイドの方々の尽力のおかげと深く感謝している次第です。

さて、当地の調査結果として現時点では、(1) 当地からは弥生時代中期の集落跡(堅穴住居2棟、井戸/基)と古墳時代後期の集落跡(堅穴住居4棟掘立柱建物2棟の他土坑、ピットなど)の概ね2時期の遺構を検出した。(7ページに続く)



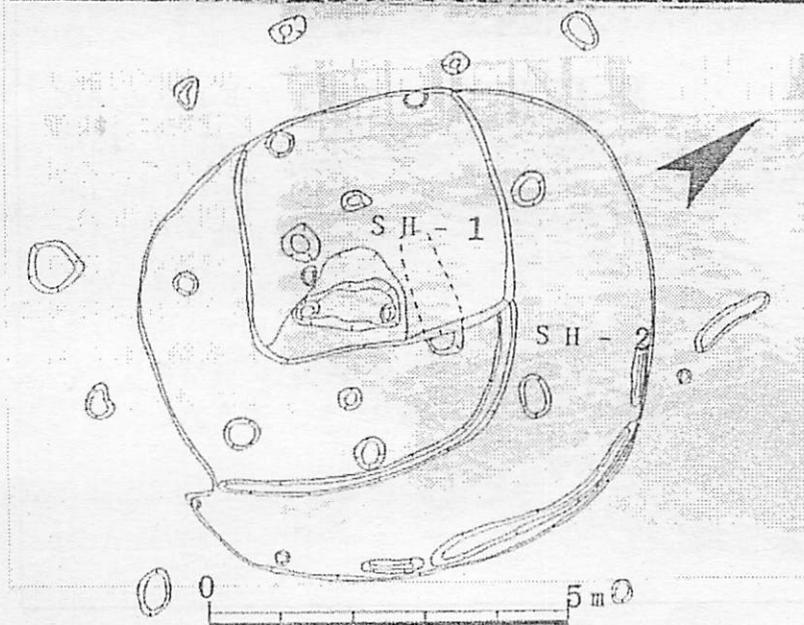
○調査地全景
北西より撮影、
手前にS H - 1
2が、奥にE地
区の遺構群が見
える。

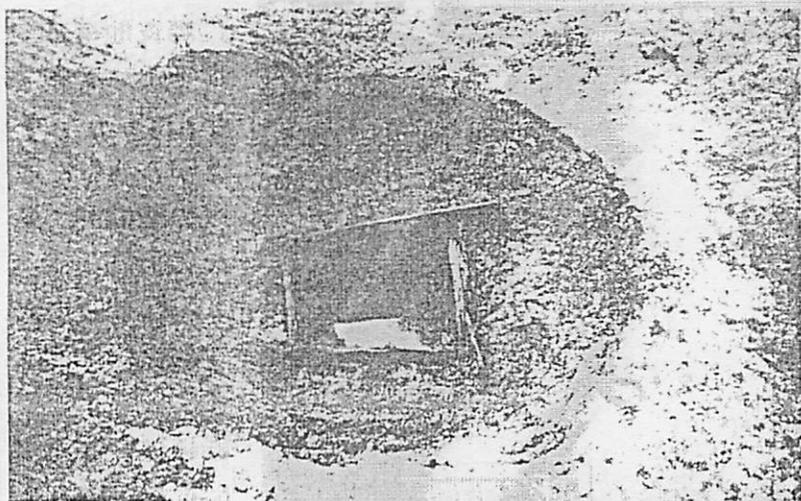
そして中央に
弯曲気味に伸び
るS D - 1の河
底には、井戸、
S E - 1もみえ
る。



○S H - 1、2
の写真と平面図
隅丸方形の堅穴
住居S H - 1が
円形のS H - 2
の後に構築され
たと考えられる。
が、ともに伴出
遺物から、弥生
時代中期の時期
が考えられる。

S H - 2の床
面からは、石器
の材料として用
いられるサヌカ
イト（さぬき石
）の剥片も出土
している。

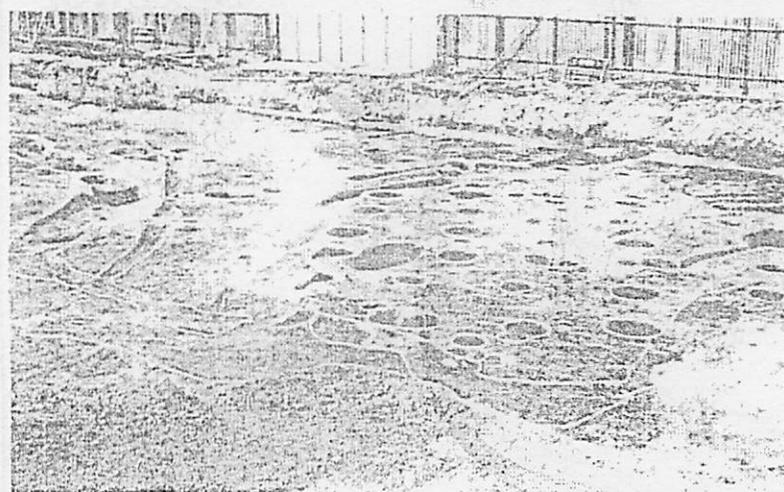




○井戸、SE-1はSD-1河底をさらに約50cm掘削することにより木枠組を検出した。弥生時代中期。



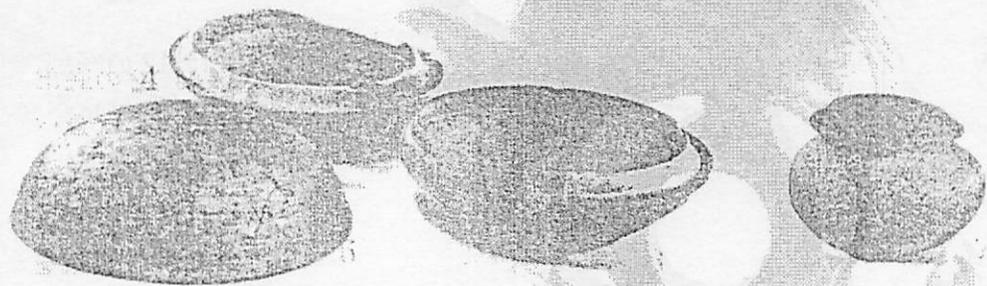
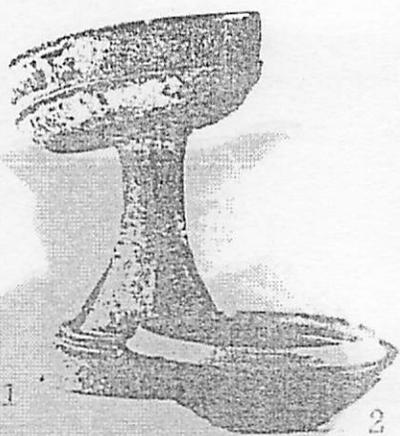
○E地区の堅穴住居は4棟が確認された。同方位で、いずれも東辺にカマドを有する。古墳時代後期。

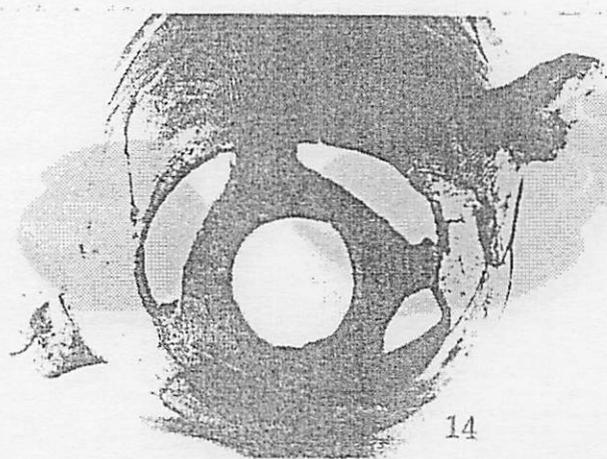
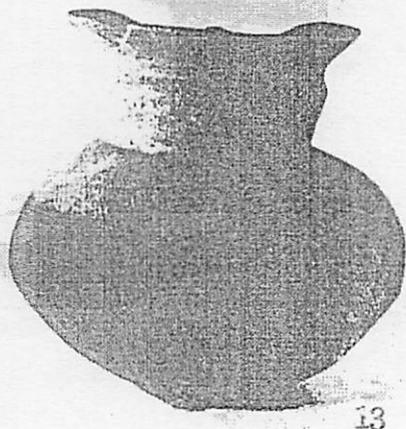
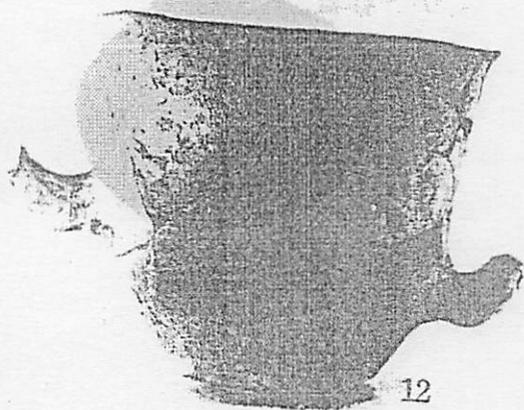
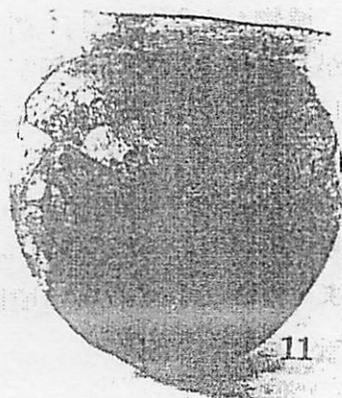
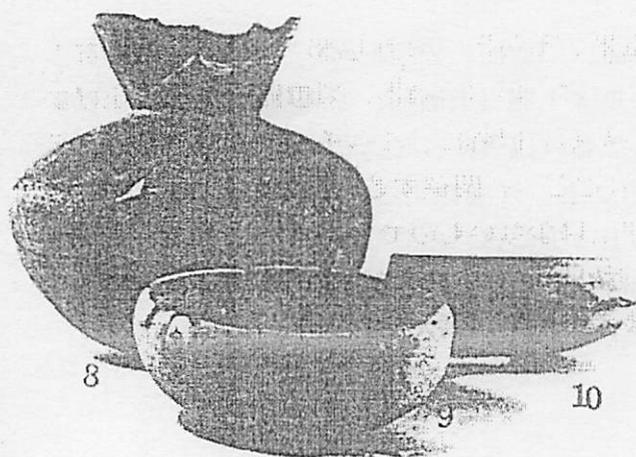


○E地区の掘立柱建物は2棟確認されているが3間×5間のこの建物は、先の堅穴住居より後に構築されたものである。

出土遺物

遺物も土器（弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器）、石器、木器などが多数出土していますが、ここでは土器（土師器、須恵器）を取り上げました。日常生活品として使われたもの以外に、ミニチュアの壺（7）、孔をうがつ壺（13）など「まつりごと」に関する土器の他、1の高坏、3の台付長頸壺も集落址からの出土は少ないものです。また、11はヘラ記号がみられ、12の甑も完形に近いものです。また本格的に整理されていませんが、いずれも古墳時代後半の時期が考えられます。





○14は12の底部の写真。甑は食べものを蒸すときに使われたもので、この孔から蒸気を通す。

(2ページより) (2) 遺構に伴ない土器をはじめ、石器、木器が多数出土した。(3) 古墳時代後期の遺構は、過去に実施した吉身南遺跡(東海道本線により吉身北遺跡と、便宜的に区分されている。)の検出遺構(昭和57年度調査の守山駅東口広場建設地で検出した遺構など。)と関連するものである。の3点が挙げられます。

3~6ページでは検出遺構、出土遺物の一部を紹介していますが、整理作業が進むと、もっと詳細な点まで明らかになるものと思われます。この「乙貞」の紙上で、あるいは特別展で報告する予定です。

昭和59年度の発掘調査と整理作業について

昭和59年度の発掘調査は現在下表のとおり計画されています。金森東遺跡、横江遺跡は58年度より継続して行なわれており、大門遺跡、赤野井遺跡、吉身西遺跡の調査も近く開始される予定です。ただ、下表は59年4月現在の計画で、例年どおり多くの調査の追加が予想されます。

発掘調査は性質上、土木工事に共通する部分もあり、周辺の皆様には何かと御迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、御協力をお願いします。

また、調査の開始時期など詳細は、明らかになった時点でお知らせする予定です。お住まいの近くで、また通りがかりに調査現場を見つけられましたら、お気軽に疑問点などを質問して下さい。お待ちしております。

昭和59年度当初 遺跡発掘調査計画表

遺跡名	所在地	面積	実施予定期間
金森東遺跡	金森町	14000㎡	59年4月~60年1月
横江遺跡	横江町	12000㎡	59年4月~60年3月(62年まで)
大門遺跡	大門町	500㎡	59年4~5月
伊勢遺跡	伊勢二町町	2000㎡	59年5~7月
赤野井遺跡	赤野井町	300㎡	59年4月
吉身中遺跡	吉身町	1200㎡	59年7~9月
吉身西遺跡	守山町	6000㎡	59年4~7月、10~12月
伊勢遺跡	伊勢町	700㎡	59年10月
吉身西遺跡	守山町	6800㎡	59年11月~60年3月
小島遺跡	小島町	800㎡	60年1月以降
(下水道関連)	市内各所		未定

なお、昭和59年度の整理作業は、下長遺跡（現在古高工業団地工場用地-造成工事中-58年度調査）、吉身中遺跡（現在サンライフ守山、57年度調査）、吉身西遺跡（現在成人病センター西の道路-工事中-58年度調査）、吉身南遺跡（現在グランドメゾン、57年度調査）、小島遺跡（現在河西小学校プール、57年度調査）、吉身北遺跡（梅田町、56年度調査）と服部遺跡の7遺跡について行なう計画です。

整理作業は出土した遺物の洗浄からはじめ、接合-実測-復元という過程を経る他、測量図の図化作業（トレース）などもあり、多くの時間を必要としますが、できるだけ早く、調査結果の報告ができるよう努力したいと考えています。

昭和59年度の特別展開催について

去る3月/8日~25日の間、「昭和58年度調査速報展」というテーマで特別展を開催しましたところ、多数の見学者があり、大変励みに感じております。59年度も4回の特別展を下記のとおり計画しています。出土遺物の展示のみに終始することなく、映画の上映、講演会や実際に体験できる催しなども織り混ぜ、特別展見学がより意義あるものになるように職員一同がんばります。

昭和59年度 特別展開催計画		() = 期間	「 」 = テーマ
○第1回特別展	(4月29日~5月6日)		「古代の日常品の種類と役割」
○第2回	〃 (8月19日~26日)		「未定」
○第3回	〃 (11月1日~30日)		「未定」
○第4回	〃 (3月17日~24日)		「昭和59年度調査速報展」

XXXXX 後 記 XXXXXXXXX

人員も新たに昭和59年度がスタートしました。この埋文センターが最初に活躍するのが、第1回特別展と小学生の遠足です。

4月下旬から5月にかけて、市内の小学校はもとより近隣市町からもセンター見学を訪れ、大盛況の日々が続きます。素晴らしい田園風景の遠方に児童の列を見つけ出した時、当方も気を引き締めて待機します。そして帰路につく児童の列をながめながら、静寂のもどったセンターで一人、「今日の話はこれでよかったのか？」などとシリアスに思い込む日々も続くわけです。子供達の遠足のために、このシーズン、雨は夜だけ、そして田畑だけにして下さいと祈ります。

馬耳東風